

別記第1号様式（第7関係）

会 議 録

附属機関又は 会議体の名称		第2回 豊島区観光振興推進委員会
事務局（担当課）		文化観光課
開催日時		令和6年 10月 30日（水）15時～17時
開催場所		区役所本庁舎5階508・509会議室
議 題		1 開 会 2 豊島区観光振興プランに係る文化観光課内事業の成果報告 3 戦略1「多彩な文化資源の発掘と活用」について 4 その他
公開の 可否	会 議	☐ 公開 ☒ 非公開 ☐ 一部非公開
	会 議 録	☒ 公開 ☐ 非公開 ☐ 一部非公開
出席者	委 員	羽生冬佳委員、井上一委員、高田昌子委員、 今西和貴委員（代理 近藤舜介委員）、倉林真弓委員、 蔵方康太郎委員一乃瀬光太郎委員、石川裕委員、堀内裕介委員、 渡邊圭介委員 計11名
	事 務 局	文化観光課長、文化観光課職員5名

審 議 経 過

1 開会

(文化観光課長) 本日はお忙しい中、ご出席いただきまして、誠にありがとうございます。ただいまから第2回豊島区観光振興推進委員会を開催させていただきます。

それでは議事に入る前に、会議の公開についてお諮りしたいと思います。

ここでの議論を多くの区民の皆さんに知っていただくため、会議録を公開したいと思いますですがよろしいでしょうか。

ありがとうございます。会議録の公開については、個人が特定されないように配慮いたしますので、ご安心ください。また、この会議ではAIによる文字起こしツールを活用し、議事録を作成いたします。念のためお願いですが、音声データを取得しまして、当該データは暗号化され外部クラウドに即時転送されています。その関係で、個人情報や、区民の財産・生命、行政事務の執行等に重大な影響を及ぼすような区の情報資産などについてのご発言はお控えいただきますようお願いいたします。

次にお手元の資料のご確認ください。不足がありましたらお知らせ下さい。

それでは開会にあたり、本委員会の委員長よりご挨拶をお願いいたします。委員長よろしくをお願いいたします。

(委員長) 皆様、こんにちは。本日はお忙しい時間にお集まりいただきありがとうございます。前回、第1回を6月中旬に行いました。その後、酷暑の夏を経て、過ごしやすい季節となり、イベント関係を含めて、大変お忙しいことと思います。我々の業界は、季節・気候・異常気象といったことに、非常に影響を受ける業界です。特にこの夏はいわゆる異常気象で、皆様の業界や行っている事業にどのような影響があったか、情報をいただければと思います。また季節が良くなると、非常に多くの人が動き始めるのではないかと思います。

本委員会は、ご案内にありました通り、観光振興プランの進捗状況も確認するとともに、皆様が課題を感じていることなどを、情報交換共有をしながら、課題解決に向けて議論深める場として活用いただければと思っております。ぜひ、日頃感じていらっしゃることや、クレーム、期待、注文を含めまして、忌憚のないご意見をお聞かせいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

(文化観光課長) ありがとうございました。それでは当委員会設置要綱第5条2項 「委員長は会議を総理し委員会の会議の進行を行う。」とございますことから、進行を委員長にお願いしたいと思います。委員長、よろしくお願いいたします。

(委員長) それでは、次第に沿って進めさせていただきます。まず次第にあります「2.豊島区観光振興プランに係る文化観光課内事業の成果報告」を事務局よりご説明をお願いい

たします。

2 豊島区観光振興プランに係る文化観光課内事業の成果報告

(事務局) 資料1を説明。

(委員長) ありがとうございます。ご説明の通り、文化観光課内で行っている事業で、5年度の決算、成果指標・活動指標での評価、6年度の予算、7年度の方向性という構成でご説明をいただきました。

現在進めていただいている事業へのご意見や、令和7年度の方向性へのご意見・ご質問でも構いません。いかがでしょうか。

私から1点確認です。来年度に向けて、金額の多少の増減があるにしても、大きな枠組みは変わっていないということで宜しいでしょうか。東アジア文化都市推進事業は廃止というご報告でしたが、それ以外の事業はいかがでしょうか。

(文化観光課長) 廃止予定事業は、東アジア文化都市推進事業、インバウンド推進事業です。インバウンド推進事業は、インバウンド冊子の保守・運用とあり、こちらは55万円の経費がついていましたが、廃止を検討しています。こちらの代替として、別の紙媒体や、観光協会・池袋東口観光案内所・大学生などと連携していく方向性で考えています。

(委員長) インバウンド推進事業は、別の事業の中に入っていくのか、新たな事業が起こされるのかどちらでしょうか。

(文化観光課長) 新たな手法で対応することを考えています。例えば、これまで豊島区の観光マップは観光協会やインバウンド推進協力会が作成していますので、それぞれの特性を活かして区の意見を反映させていただくことで、協力・支援を行えればと考えております。

(委員長) 少し視点は変わりますが、全体的に事業名と事業内容が紐づいていないというように感じています。例えば、「観光振興事業」は、観光団体の育成・支援と書いてありますけれども、各種団体との調整を行いながら、協力関係の中で支出ができるということがあれば、今の話は実現しやすいと思ったのでお聞きしました。行政の事情がおりかと思いますが、次年度に向けて、多少整理整頓できると良いのではと思いました。その他、意見・ご質問はいかがでしょうか。

(委員) 目標値・実績・達成度がありますけれども、目標の設定はどのように行っているのでしょうか。何か基準や方向性などあるのでしょうか。

(事務局) 基本的には、過去の実績などを踏まえて、適切と思われる数値を、担当の中で設定しています。

(委員) 達成率が低いと事業の成果がなさそうに感じますが、目標を下げれば達成率が上がってってしまうので、難しいところかと思えます。

(文化観光課長) この辺までは達成できるという、一歩先ぐらいのことを想定して目標を決めています。

(委員) 100%を目指していると思いますが、70%だと努力が足りないということになりま

すか。

（文化観光課長）100%を目標としていますので、達成できなかった部分は何ができるかということを次年度に向けて検討しています。

（委員）14 ページ文化観光施設回遊促進事業ですが、これは **IKEBUS** のことかと思えます。このツアーに参加されているのは観光客と区民ではどのような割合でしょうか。

（文化観光課長）割合についてはすぐにお答えできませんが、近隣区から参加が多いと聞いています。

（委員）**IKEBUS** は区民にとって誇り、すごく良い、デザイナーの方が非常に高名な方なので一度乗ってみたいという声を聞いたことがあります。ただ一方で、車内で温度調節ができないということで、苦情もあると聞いています。ですからこの点で少しでも改善ができて、計画的に運行ができれば、より観光客の誘致に役立つと思います。

直接のご担当ではないかと思いますが、設備面での改善へのお考えはあるのでしょうか。

（文化観光課長）はい。確かに、そういったご意見も多くございますので、所管部署に伝えています。ただ、窓を開けて運行する良さもあり、沿道と車内からお互い手を振り合い、コミュニケーションが取りやすいという良い面も担当者から聞いていますので、意見を真摯に受けとめながら、良いものにしていければと思っています。

（委員長）回遊促進で **IKEBUS** のツアー、ナイトライフの推進で **Yube** のコンサートの実施というように、イベントごとの内容が目立つ印象です。イベントによって人が集まるので、やらないよりやった方がよいと思いますが、限られた予算・人的資源では限界があると思います。ナイトライフを促進することが、コンサートの実施なのかという点は、見直しをした方がよいと思っています。

プランは、トップダウン型で施策の体系を作っていますので、理想を先に記載しています。対して、現実的にできることは何かというのを、毎年担当の皆様が予算を積み上げ、事業を実施しているところだと思います。プランに掲げられていることに向けて、このような名称の事業がある場合に、その同じ予算の中で何か他にできることはないのかという目線でも、チェックいただくと良いのではないかと思います。特に **IKEBUS** は、この夏、車内はサウナのようなようだったと思うので、運行にかなり支障があったと思います。**IKEBUS** 自体が、グリーンスローモビリティで、環境負荷が低く、最低速度で地域を味わっていただくということを売りにしている乗り物であれば、快適性を増すために夏だけ冷房を付けるのか、もしくはグリーンスローモビリティなので風を感じながら乗っていただくことを提案するのは、観光に限らず豊島区がどのようなメッセージを出していくかによるかと思います。また、所管の都市計画課でどうするのかということを練っていただいて、その中で観光が所管をするものとして切り取って出していくというが見方かと思います。この事業名が文化観光施設回遊促進事業で良いのかというのも検討の余地があるかと思いますが、全庁的に見て、予算を合わせれば、**IKEBUS** の魅力的な使い方を、他の部署との調整の中で考えていく必要があると思いました。他にはいかがでしょうか。

(委員) 令和 7 年に向かって予算化も含めて、強化していきたいポイントはすでに決まっていますでしょうか。

(文化観光課長) 現在、来年度予算について、財政課と協議を進めています。強化のポイントとしては、観光案内所の連携の強化が挙げられます。現在、JNTO の許可を得ている案内所は 12 ヶ所あり、その案内所のご担当の方を集め案内所連絡会を開催し、各社での情報共有の場を整備しています。

観光案内所の発信、インバウンドへの発信、受入環境整備、案内サイン整備は注力していきたいと思っています。

(委員長) ありがとうございます。金額に注目するとトキワ荘の予算規模は大きいですが、お金がかからない中でも重点化してくというのを、どう庁内で表現していくか、あるいはこの場で皆さんにご説明いただくかというのは、次年度以降も引き続き検討していく必要があると思います。他はいかがでしょうか。

(委員長) 次の議題に移らせていただきます。「3 多彩な文化資源の発掘と活用」について事務局よりご説明をお願いいたします。

3 戦略1「多彩な文化資源の発掘と活用」について

(事務局) 資料2を説明。

(委員長) はい、ありがとうございます。観光振興プランには戦略が5つありますが、その中の一番目について、今日はぜひご検討いただければと思います。

1 ページ目はプランに書かれている内容で、「多様な文化資源の発掘と活用」で施策は3つあります。これについてどのようなことでも構いません。また、4 ページ目にありました通り、各企業団体様の皆様の取り組み、あるいは先ほど私からお願いいたしました、この酷暑の中での人の動きなどご紹介いただきつつ、今後の観光施策の推進に向けての、ご提案をいただければと思っております。では順番にご意見を頂ければと思います。

(委員) サンシャインシティは、年間約 3000 万人以上のお客様にお越しいただいています。今年で開業 46 年になり、老舗の施設ではありますが、これだけのお客様にお越しいただいているのは、ありがたく感じています。そして、弊社の施設自体が観光資源のひとつであると捉えています。その魅力を保持していくための努力というのは、社を挙げて取り組んでおり、例えば商業施設の運営、水族館、展望台の 2 施設については直営で行っています。それ以外にもプラネタリウムやナンジャタウンなどのアミューズメント施設を有していることも大きな強みだと思います。

また、キャラクターと組んだイベント等にも注力しています。例えば展示ホールを貸し出してイベントを行っていただいたり、水族館や展望台、商業施設等を複合的に連動させたイベントを行ったりしています。

商業施設内にも約 20 店舗のキャラクターの店舗がございます。日常的にも多くのキャラクターに触れる機会が増えているというのも、当施設の特徴であると思います。

豊島区では、特に池袋に関してはマンガ・アニメやコスプレ等でまちの魅力を発信している中で、当施設もその一部を担っていると思います。

以上のような商業的な面も持ちつつ、教育や社会貢献に寄与する活動を行っていることも特徴です。水族館は 2006 年から、サンゴの保全活動を行っています。また、地域の NPO 団体、企業等と連携して、子供の支援事業なども行っています。私たちとしては商業の視点に加え、地域の方と一緒に地域や社会に貢献していける施設を運営していることなども含め、観光資源に繋がっていればという想いでおります。

（委員長）ありがとうございます。46 年前はかなり一番高いビルでしたし、大規模再開発だったと思います。現在はキャラクターが強いということだと、若年層向けという印象ですが、客層の変化はあったのでしょうか。

（委員）オープン当初に関しては、百貨店が入居していて、比較的高級なショップが並んでいたと聞いています。当時は、所得の高い方々をターゲットに店舗をラインナップしていたようです。それから時代の変化とともに店舗の入れ替えもあり、現在は、日常的に利用できるような価格帯のお店が増え、ここ数十年でファミリー層も増えています。また、キャラクターの店舗はここ数年の間に増えておりますが、キャラクターというと、若年層が多いのではという印象を抱かれるかもしれませんが、大人の方、インバウンドの方も多くいらしていただいている状況で、広い客層の方にお越しいただけるようになったと思います。

（委員長）ありがとうございます。続きまして、次の方をお願いします。

（委員）観光施策の推進という観点では、弊社としては秩父エリアを中心としてプロモーションを行っている中で、池袋はその玄関口として非常に重要な拠点と位置づけております。一方で、観光地ではない都心部や郊外エリアの地域活性化・魅力創出にも、ここ数年は注力しております。例えば、沿線で開催されるイベントとの連携や、地域の飲食店等の情報を発信して回遊を促すような取り組みをしております。直近では、トシマストリートフェスで弊社ブースを出展させていただく予定です。その際、東長崎駅の会場でもご協力をさせていただきます。引き続き、豊島区や地域の方と一緒に盛り上げていく姿勢を取っていきたいと思っております。

また、エリアマネジメントにも注力していかなければと考えていますが、まだ具体的な事例をお伝えできる形にはなっておりません。沿線地域の皆様とともに、エリア価値向上を進めていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いします。

（委員長）はい。ありがとうございます。東長崎駅で何かやられていた、もしくは東長崎駅周辺の情報発信を行ったということでしょうか。

（委員）東長崎駅の件は、トシマストリートフェスのサテライト会場となっておりますので、駅の玄関口にあたるところで一緒に催し物を行うための調整などご協力させていただいています。

（委員長）ありがとうございます。では次の方をお願いします。

(委員) まず、当館の状況といたしましては、外国人対応件数が前年度比 500%増、来館者数全体の対応件数としましても 200%増となり、比較的好調かと思っております。

マンホールカードのお話もありましたけれども、最近ではリアルスタンプを求めている方も多く印象です。特に、欧米の方はオリジナルの自分のスタンプ帳を持っていたりして、我々の方では IKEBUS のキャラクターイケちゃんのスタンプを置いてあるので、それを押して差し上げると非常に喜ばれています。

観光資源というところでは、我々としては 2 点に絞って精力的に行っております。一つは若者、もう一つは IKEBUS です。

まず若者からお話をしますと、学生連携、特に区内在学の学生との連携を深めており、JTB ツーリズムビジネスカレッジの学生さん、立教大学の学生さんに協力をいただきまして、旅先クイズ会を行っています。こちらはオーバーツーリズム対策を基にしたクイズ会で、旅行者に対して旅行者を受け入れるためにどのような努力をして、安全安心のまち作りをしているかというのを、楽しいクイズ形式にして、お客様に知っていただくという取組です。クイズ会は 5 月、9 月に行いました。こちらは、学生にクイズを作成から考えてもらい、実際の会場で出題するのも学生という形行っています。若者が行っているという印象のお客様も非常に若く、豊島区が消滅可能性都市のつらい時期を乗り越えて、明るく住みやすく、旅行者の受け入れやすいまちになっているというメッセージを若者同士で言い合えるのは、非常に良い流れだと思っています。

また、もう一つの若者の事例では、インターンを受け入れました。案内所として、8 月に JTB ツーリズムビジネスカレッジから 2 名来ていただき、カウンターで接客をしていただくということではなくて、豊島区が抱える観光の課題を若者目線で提言してもらうため、10 日間一緒にまちを歩きました。最終的に報告会という形で、学生 2 人には IKEBUS を活用したツアーを 2 本作ってもらいました。若者向け・外国人向けのツアーで、料金設定から実際のシミュレーションまで行い報告をしました。面白いと思ったのは、我々が最新だと思っている VR・AR にはあまり興味がなく、「昭和レトロ」、巣鴨の商店街、純喫茶に非常に興味を示していました。IKEBUS では、先ほどお話にもありましたが、窓が開いていることで写真が撮りやすい、外から入ってくる風がすごく新鮮という意見を伺いました。池袋に多くの若者が来ていますが、そこから他の場所に回遊することに対して、こういった意見を聞くのは、非常に有益だと思いました。

また、IKEBUS については、東京観光財団の「旅の観光地の魅力再発掘プログラム」という補助金事業を活用するため、一般社団法人としまアートカルチャーまちづくり協議会の方からお声がけをいただき、若者向け、外国人向けにもっと機能するツールにできないかということで、話を進めております。

IKEBUS の PR イベントでは、サンシャインシティプレーパークで 7 月と 11 月に参加をさせていただきますが、非常に年齢層が低く、小さなお子さんの認知度が高く、手を振ってくれたり、集まってきてくれたりしています。もっと若者・外国人の方に利用されるよ

うな魅力があると思っています。こちらの補助金を取りますと 600 万円補助を受けることができますので、先ほどインターンで作ったツアーとの連携をさせていこうと考えています。

（委員長）ありがとうございます。今のお話では主催者はどちらになるのでしょうか。

（委員）一般社団法人としまアートカルチャーまちづくり協議会が行います。我々はチケットを売る、もしくは PR することや、学生連携として、若者向け・外国人向けのツアーを作るワークショップも込みの事業として検討していますので、協力していく予定です。

（委員長）区の事業にある「イケバスアートカルツアー」は、文化観光課の直営の事業で良いですか。

（文化観光課長）文化観光課から一般社団法人としまアートカルチャーまちづくり協議会に委託をして行っている事業です。

（委員長）通常、運行しているものなので、空いているときしか活用できないかもしれませんが、バス自体に魅力があるのでそれをどのように活かすかというのは、もっと様々なアイデアが結集できると良いと思います。その仕組み作りが今後うまくいくと良いと思います。

（文化観光課長）おっしゃる通りで、交通政策担当課の方でも IKEBUS の貸し出しを行い、自由に使ってもらおうという方向性で動いています。これまで、区が借り上げて使っていたものを、少しずつ民間の活用に移していければと考えています。

（委員長）ありがとうございます。このような機会が増えていくと文化観光課が事業で行わなくても、うまく活用できるようになるのではと思います。では、次の方をお願いします。

（委員）私たちは区全体で誘客促進・まちの活性化に向けて、どうしたらよいかと考えているところでございます。来街者の豊島区に来る目的は食べ物・イベント・買い物だと思います。そうすると池袋に集中してしまい、その他の地域への来訪をどう促すかということが課題になります。そこで来訪の目的でお話したイベントが重要になり、魅力的に作っていく必要があると考えています。例えば、駒込の桜まつり、巣鴨の菊まつり、大塚のバラ祭り、長崎の獅子舞など各地域の特徴を活かしたイベントを行っています。イベントの良い点は、賑わいの創出、経済効果が生まれることと、もう一つは地域コミュニティです。イベントに関わることで、ご高齢の方から若い人までが共に伝統を作っていくことにも意味があると思います。こういったイベントに予算を取っていただくことで、地域の活性化になるのではと考えています。

もうひとつ、面白いアンケート結果があったので紹介します。「ねとらぼ」というサイトです。ネットユーザーが盛り上がっている内容、関心のあるテーマを取り上げて、ランク付けしているものです。

今年の 7 月に出した調査なのですが、23 区で散歩が楽しいと思う区ランキングというのがありました。1 位江戸川区、2 位練馬区、3 位葛飾区、4 位江東区となっていて、豊島区は 23 位でした。女性に絞ったものも 23 位で、50 代に絞ってもほぼ同じで 21 位でした。豊

島区には自然や河川敷もないので、散歩を目的に来る人はあまりいないのかもしれませんが。また一方では、買い物が楽しい街ランキングというのがあって、2位が新宿区で1位は豊島区でした。他にも永住したいランキングでは、1位が練馬区、2位杉並区、3位文京区で豊島区が20位でした。

このランキングはサンプル数も少なく評価はわかれますが、長く観光に携わって感じるところと遠からずという印象でした。まち歩きマップを作っても、あまりリアクションが少ないのはこういうことかと納得しました。

最後にこれから必要なことは、イベントを一生懸命盛り上げ、地域のコミュニティの形成と、集客に努めていくべきじゃないかと思っております。

(委員長) はい、ありがとうございます。少し残念なアンケート結果でした。イベントや、祭りというのは、地域でのコミュニティ醸成、様々な年代の人たちがコミュニケーションをとるために非常に重要なツールです。おっしゃる通り、地域活性化、住民の方々が意見を交わしたり、協働したりというのは重要だと思っています。ただ、集客のコンテンツとして見た場合に、毎日できないということが挙げられます。1年のうちの1日、2日あって、そのときは楽しめて、経済効果もあるということで良ければそれでいいと思います。ただ、そうすると観光の分野でなくてもよいのではという考えもあります。

おっしゃっていただいたことの重要な点は、豊島区内では何かしら毎日イベントが行われているというのは、とても意味のあることなので、主体別に整理をしていく必要があると思っています。プランの中にも「祭り・地域イベントを活用した誘客促進」と位置付けていますので、やり方を考えていく必要があるということです。

散歩に関しては、散歩が楽しくないまちで良いのか、このようなイメージで認識されているのを課題するのかは、すぐにできる話ではないですけれども、皆様からご意見をいただいて、考えていければと思います。

食べ物・買い物については、統計にも出ていますので、これを官民でどう盛り上げていくのかは、ご意見をいただければと思います。では次の方お願いします。

(委員) 協議会の立場と、普段のデザイナーという仕事の立ち位置からの意見を交えながら、ご意見がさせていただきます。協議会で主体となるのは地域・町会・商店街です。現在、「②マンガ・アニメ・コスプレのまちのイメージ強化」ということに区と協働で取り組んでいます。

プランには「多彩な文化資源の発掘と活用」とありますが、文化と観光がイコールなのかそうではないのかというのは、デザイナーとして悩みが大きいです。2020年4月施行された文化庁の文化観光推進法では、豊かな国民生活の実現と、国民経済の発展に寄与することを目的としています。区として何を目的とするのか、かなり不明瞭だと感じています。その中でトキワ荘を活用して様々なイベント等を行っているところですが、悩みが多いところでは。

これまでいくつかお話が出たトピックスに、こちらで持っている情報・意見をお伝えした

いと思います。イベントについては、今の話で言うと私達はステークホルダーとしての町会・商店街の方、地域に住んでいる方の生活・交流のためにイベントを行っていると同時に、地域の PR として誘客をしていく役割を担っています。イベントの数でいうと年の半分ぐらいはイベントや、その地域にある神社のお祭りを行っています。

地域のコミュニティとして、掘り起こしをしている世代があります。30・40代の働いている世代の方は、土日にまた、地域のコミュニティに参加して、イベントのお手伝いしようと思う人は多くはありません。そういった人たちに対してどう協力体制を作っていくかは、非常に課題として挙げられています。

地域のコミュニティでは、プランもそうなのですが、行政がどこに向かって何をやっていくのか、誰を対象にするのか、どこが主体なのかを明確にすると良いと思います。行政の職員が地域に入って最後までやるのは難しいことなので、私達はそのラストワンマイルというところで様々な事柄を行っています。そこにいる人たちは、例えば先ほどの散歩の話でも、改善案を示してしてくれる人がいてそれを繋いでボトムアップしていくという作業を、30・40代のサラリーマン世代が実際にリーダーとして、効果を上げていくためにどうするかというプランを立て、取り組みを行っているのを豊島区は比較的多く行われていると感じています。

例えば、11月に行われるリビンググループではグリーン大通りを活用したイベントが行われます。地域で活動されている人が主体的に行うことで、地域を盛り上げているという点で、観光振興として非常に魅力のある内容だと思います。これを行政が主体で行うのか、地域を支援していくのかを分けて考え、プランを振興するのが誰なのかという議論をするのは、非常に良いことではと思います。

また、先ほどの資料1にあった指針の共有が必要だと思います。支援のあり方や支援の助成も含めて、より効果的に協働で果たすことができるのではと考えています。

（委員長）ありがとうございました。いくつか重要なご指摘いただきましたが、時間の関係上ここで議論するのが難しいので、事務局でもご検討いただければと思います。何かご意見等ありますでしょうか。

（文化観光課長）主体のあり方を考えなくてはならないと思いました。トキワ荘は地域主体で行っていますが、区の事業も行政主導や民間主体と様々です。今までの在り方を少し見直すことによって、新しい形が見えてくることや、支え手に色々な形があるとよいと感じています。

（委員）IKEBUSは、活用を場所を行政と一緒に考えながら運用していく必要があると思います。回遊促進か地域の活性化のためかという視点でも、変わってくところがあると思います。結局その一つ一つの要素の必要な情報として、プランで受けている部分があるのは、それは主体なのか、協働なのか、その先がどういうことをやっているのかということがわかると良いと思います。

（委員長）ありがとうございます。ご指摘頂いた内容は、策定委員会の中でも議論があり

ました。先ほど指標ではなくて指針が重要だという話があり、これをどうやって皆さんに読んでもらうかという議論もありました。プランには区がやることだけではなく、民間・住民の皆様にも加わっていただきたいということが書かれています。

推進委員会を行うなかで、委員の皆様が日ごろどういう方々と一緒に活動されているのか、業務の中でどういうお付き合いをされているのかということを持ち寄って、皆様の支援するために、よりよい事業を作っていくことを提案ができれば良いと思っています。もちろん区が主体でもうまくいきますが、区だけが取り組むのではなく、それぞれが主体的に取り組むことや、区に何を期待しているのかということをご提案いただきたいと思っています。今頂いたご意見は、時間をかけて議論していきたいと思っています。

では、次の方をお願いします。

（委員）我々の主な業務としては、事業所への PR、または団体としての協力協賛を行っています。また、おおよそ 5 年に 1 回、周年事業を行っており、スタンプラリーを行ったり、何かの切り口でガイドブック作ったりしています。23 区内でそれぞれ支部があり、同様に行っています。

また、業種別の分科会という事業者の方の集まりがあります。観光分科会というものもあり、こちらの分科会だけは業種にとらわれず、観光に関心のある事業者さんや、観光産業を行っている事業者さんが集まって、観光協会の方にも協力していただきながら、何かできることはないかと模索をしています。

観光としては、外国人の方が体験型のものを求めてらっしゃる傾向にあるので、企業として何ができるのかを検討し始めています。企業というのも、地元企業の方や、たまたま会社を開いたという企業の方もいらっしゃいますが、だんだんと地元に戻元をしたいという意識が醸成されてくる方が多く、協賛などへ発展していきます。こういったことを上手く活用していただければ、協力できることがあると思います。

また、観光に関わる方々の人手不足が問題となっている中であるときに、労働環境を改善するような支援も行っています。

先週、コスプレフェスがあり、多数の方がいらっしゃっていました。ここで豊島区のファン・池袋のファンになってもらい、SNS などで発信をすれば、また翌年以降の来訪に繋がりますので、こういった方々に様々な情報を提供することで、観光地や観光資源を広げていくような体制ができていくと良いかと思います。

（委員会）ありがとうございます。先ほどもあったような、買い物・食ではご協力いただくことが多々あると思います。また、会員の皆様のお悩みもお知らせいただければと思います。では、次の方をお願いします。

（委員）弊社は 40 周年を迎えることになり、老朽化も進んでおりまして、リニューアルをしまして、運営している状況でございます。

また、池袋インバウンド推進協力会というのも開いておりまして、皆様には共有しているのですが、この場でもう一度私どもの状況をお伝えします。お客様は 75.6%が外国人のお

お客様で、地域別に言いますと、1 位香港、2 位中国、3 位アメリカ、4 位台湾、5 位韓国となっています。続いて、シンガポール、オーストラリア、インドネシア、タイ、イギリスのお客様がいらっしゃっています。消費単価もすごく上がっており、レストラン利用で 1 万 4000 円のコース料理がインバウンドのお客様にはご好評を頂いています。また、日本酒とウイスキーの需要も高まっており、こちらも消費額が上がっています。

今後は、より売り上げを上げるためにはどうするという点で、単価の高いお客様を呼び込みたいということはもちろん、まちに魅力の向上を図っていく必要があります。ホテルの宣伝をしても、このホテルに泊まりたいという方よりは、このまちに魅力があるか、利便性が高いかとか、滞在中にどう過ごすかっていうのを想像しながらこのまちのホテルに泊まろうというお客様が増えています。また、団体よりも個人のお客様がかなり増えている傾向です。

弊社では、今年度の予算を使って、池袋のローカルの部分を見せて、私達が会社帰りに行けるレストランや気軽に呑みにいけるお店、カフェを楽しんでいますという動画を作ろうとしています。人づての情報や、自分が好きなものを紹介する方が信頼性があるという点で取組んでいます。先ほど昭和レトロというお話もありましたが、近くにレトロな喫茶店があり、ほとんどが外国人のお客様でした。何を見て来たかと聞くと Instagram とのことので、SNS の発信力の強さを感じました。また、写真ではなく動画での宣伝を始めたことで、120%とか 200%の伸び率があり、発信率が高いというのがわかっているので、弊社の魅力と併せて、まちの紹介を行っていければと思います。

IKEBUS ですが、明日 Team としまで台湾に PR に行ってきます。IKEBUS でまちを回ってもらえるというのを売りにしています。

弊社でもチケットを販売させていただいていますが、本数が少ないので、本数を増やしてほしいと思っています。運賃が 100 円から 200 円に上がったことで、本数が増えるのかなと思っていたのですが、増えていないので残念だなと思っています。

また、弊社の取組みとして、「国際アート・カルチャー都市構想として、文化芸術の活動を推進している豊島区」というポスターいただいて貼らせていただいています。最近このワードが出てこないなと思っています。区との連携ということで、1 ヶ月に 1 回立教大学の学生さんのアカペラやブラスバンドの演奏の場を提供し、回遊美術館にも積極的に取り組んでおります。これらにより、豊島区の大きな目標に寄り添えて、まちの魅力を発信できたらと思っていますが、弊社が同じ方向に沿ってやっているのか疑問に思いお聞きしました。

文化はインターナショナルで言葉が通じなくても、皆さん喜んでいただけるものですので、今後も惜しみなく発信させていただきたいと思っています。

(委員長) はい、ありがとうございます。

(委員) いろいろご説明・お話いただきましてありがとうございます。国際アート・カルチャー都市ですが、現在、豊島区の最高規範になる基本構想・基本計画の策定を進めてお

ります。実は本日も 18 時半からの審議会がございますが、特に文化の部分では、検証しながらさらに発展をさせるということで、検討しております。その関係でワードが変わってくる可能性がございまして、今年度あまり出していないというところがございます。これは今年度中に策定をして、来年度からの展開にはなりますけれども、新たなワードが出てくるのか、またそのまま使うのかというところは、お待ちいただければと思います。今後はこのような話も、池袋インバウンド推進協力会など、様々なところで申し上げていき、積極的に発信ができるように努めてまいりたいと思います。

（委員長）「国際アート・カルチャー」を使わなくなる可能性が高いということでしょうか。

（委員）審議の途中ですので、何とも申し上げられませんが、もう少しわかりやすい言葉で皆さんに伝えていきたいというところもございまして、変更になる可能性はあるかと思っています。

（委員長）決して文化・芸術が方向性から消えるわけではないということです、引き続き、よろしくお願いいたします。では、次の方をお願いします。

（委員）10 月中旬には池袋本町で、11 月には大塚駅の南北を使って商人祭りをおこないました。池袋本町では地元の方が運営を行い、地域の活性化に繋がっていることで、災害時の対応にも活かされており、来賓の方からも評価していただいています。

大塚には、多くのお客様がいらっしゃり、外国人の方が見受けられました。

都市型で行っている大塚と地域主導で行っている池袋本町で、どちらもそれぞれ良さがあると思いますが、観光から見てどうかと考えました。池袋本町には外国人はほぼ来ていませんが、池袋・大塚には多くいるので、池袋本町に外国人が来るにはどうしたら良いか考える必要もあると思います。特にローカルな情報が有益という話もありましたので、池袋本町のような地域で取り組むイベントを区や観光協会と連携して何か PR できればと思いました。

豊島区全体で行っているイベントについてです。所管ごとに把握されているかと思いますが、カレンダーなど作られているのであれば、発信をすることで、誘客の促進に活用できるのではないかと思います。

「まちの魅力の掘り下げ強化」で、「地域住民目線による日常に根差したまちの魅力の発掘と活用」とあって、これも大切なのですが、地元にいるともう慣れてしまっていて発掘するのが難しいということもあるかと思うので、全く行ったことのないような人たちが行ってみて、感じた魅力も新鮮だと思います。

最後に、商人まつりでは救護用のテントを立て、車椅子と簡易ベッドを設置しました。消防庁と連携して、消防隊員の方に対応してもらいました。イベントの華やかさの裏では、安全安心の取組みも重要だと感じました。実際、池袋本町では、具合の悪い高齢者の方に車椅子を活用していただきました。

（委員長）ありがとうございます。最後のご発言は大切なことだと思います。

安全・安心でないと遊びにくくすることはなく、やはりリスクに対してどれだけセーフティー

ネットを張っているかというのは、むしろ行政的な仕事だと思っています。

地域住民目線で発見するのは難しいというのも、おっしゃる通りです。観光の現場で光を当ててもらい、気づかなかった自分の良さに気づくというのが、よくある観光の教科書的な言い方なのですが、住民の方でないとわからないものがあると思います。

価値はわからないけれど、知識はあるという意味で、その地域の深い理解、地域に対する深い眼差しっていうものを少し客観視して、眠っている魅力を誰にアピールしていくかということを考えていくことが必要になると思います。

本日、皆様からいただいたご意見は、次回の宿題として持ち越して検討させていただきます。それでは、次第に戻りまして「4.その他」を事務局よりお願いいたします。

（事務局）参考資料 1 を説明。

第 3 回の委員会ですが、来年の 3 月 24 日（月）14 時からを予定しております。また、改めて通知をさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

（委員長）はい、ありがとうございます。それでは本日は、これにて閉会させていただきます。

提出された資料等	【資料】 ・資料 1 豊島区観光振興プランに係る文化観光課内事業の成果報告 ・資料 2 戦略 1 「多彩な文化資源の発掘と活用」について 【参考資料】 ・参考資料 1 令和 5 年度国・地域別外国人旅行者行動特性調査（一部抜粋）
----------	---